

平成 24 年 9 月 6 日

アオコ情報 (No. 11)

今後一週間は、気温（水温）が高めで、降水量も期の後半は少なめになると予測されるため、土浦入りや高浜入りを中心にしてアオコが発生すると考えられます。このため、引き続き、アオコの集積や、それが腐敗して悪臭の発生する場所がみられると考えられます。

《調査内容》

場所：西浦，北浦

日時：平成 24 年 8 月 31 日 午前 7 時 35 分～午前 12 時 40 分

内容：気象等，アオコの発生状況，フィコシアニン濃度

《結果》

①アオコの発生状況（アオコレベル）

図 1 にアオコの発生状況を示します。西浦では土浦港周辺でアオコレベルが 3～6 と高く、掛馬沖～外浪逆浦沖は 0～1 と低めでした。（高浜入りは未調査。霞ヶ浦河川事務所の調査（9 月 3 日）では沿岸は 3～5）。北浦では釜谷から安塚までは 0 とアオコは見られませんでした。

※）アオコレベルは下記の「見た目アオコ指標」を参考にした。

<http://www.ktr.mlit.go.jp/kasumi/kasumi00190.html>（霞ヶ浦河川事務所へのリンク）

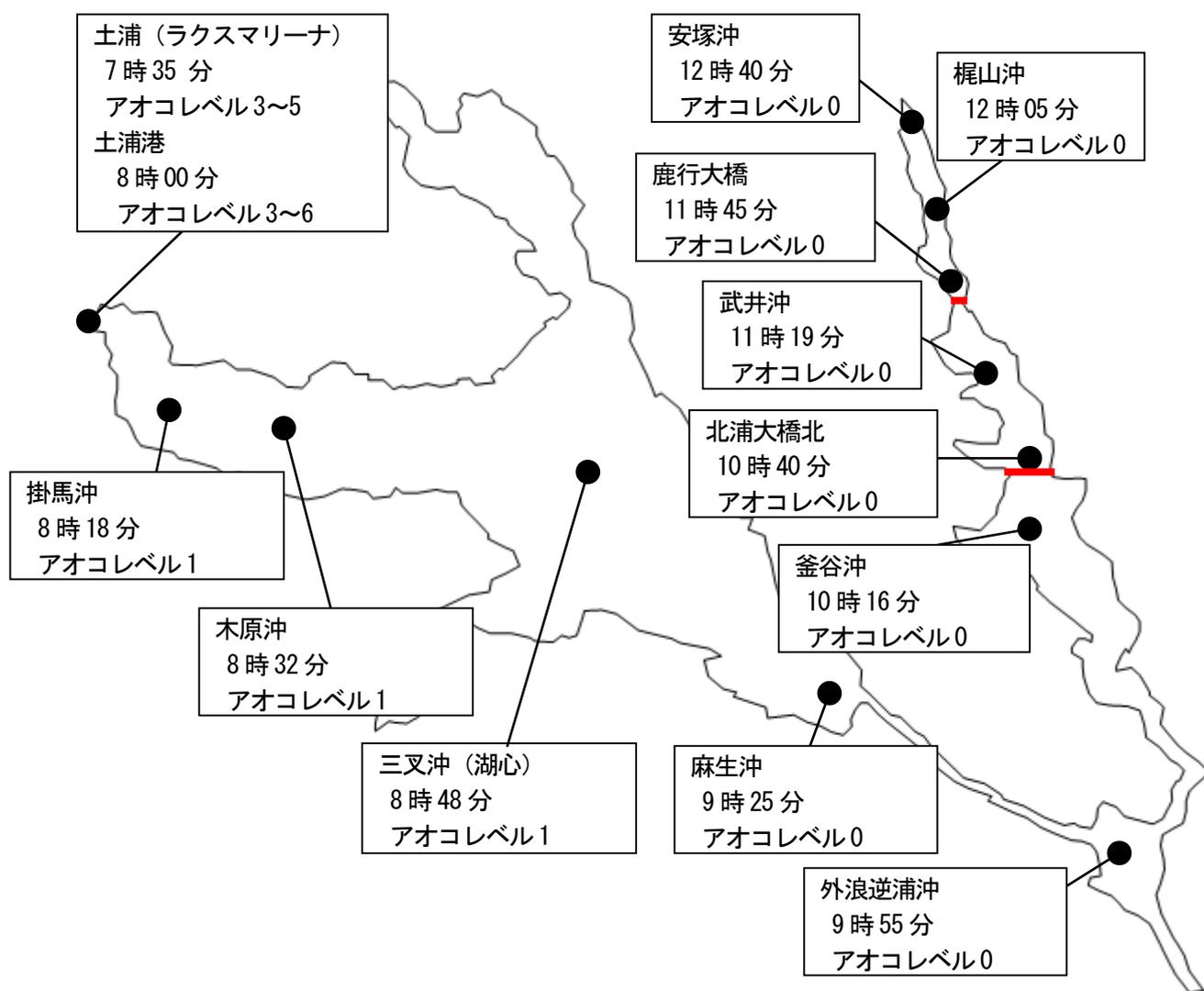


図1 アオコの発生状況

②表面水温及び透明度

表面水温は 29℃～31℃で、アオコの主要構成種であるミクロキスティス属の増殖が盛んになる水温（最適水温は 30℃程度）になっています。

地点名	天気	表面水温 (°C)	透明度 (cm)
土浦 (ラクスマリーナ) 棧橋	晴れ	31.1	25 (40)
湖心	曇り	29.7	75 (70)

武井沖	曇り	30.8	70(80)
安塚沖	晴れ	30.4	50(65)

注) 透明度の括弧は今年の8月21日の値

③フィコシアニン濃度

6月中旬以降のフィコシアニン濃度*の推移を図2に示します。土浦(ラクスリーナ)は8月中旬~下旬にかけて著しく増加しましたが、前回調査に比べて著しく低下しました。安塚沖では、湖心や武井沖に比べて高いものの、前回調査に比べると低下しました。湖心、武井沖では低位横ばいでした。

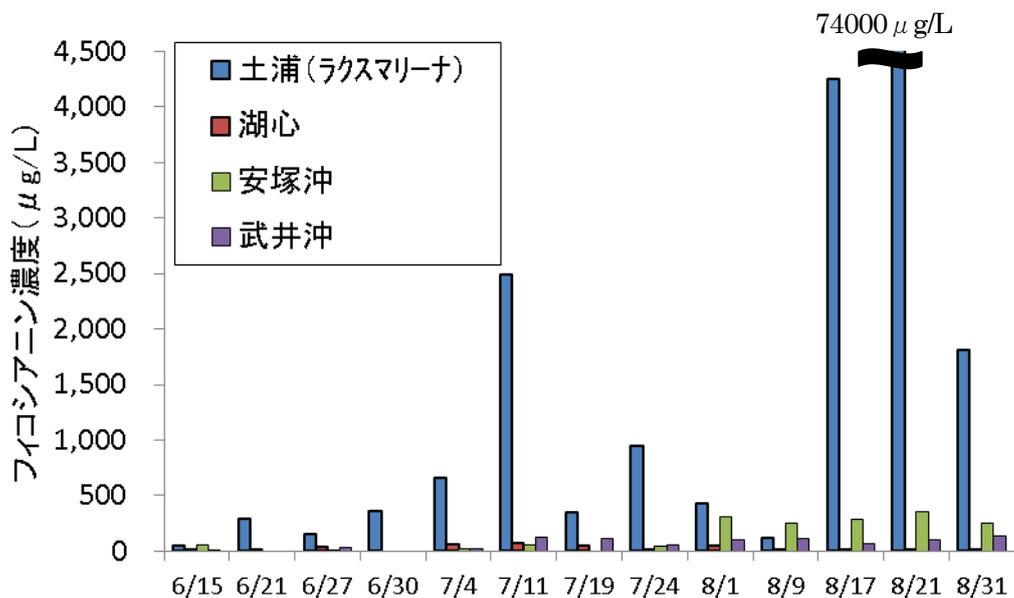


図2 フィコシアニン濃度の推移

※フィコシアニン濃度

アオコの原因となるラン藻にはフィコシアニンという色素が含まれて

います。アオコの量とフィコシアニン濃度とは一定の相関関係がみられるため、アオコの発生量の目安になると考えられます。

④アオコ発生の見通し

アオコの発生と気象条件（水温（気温）、風、日射量など）には密接な関係があることが知られています。気象庁（9月6日11時発表）によれば9月7日（金）～13日（木）は「曇り」又は「曇り時々晴れ」で推移すると予測されています。また、気温は概ね30℃を超えて平年より高めで推移し、降水量は期の前半に雨の降るところがあるものの、期の後半は高気圧に覆われて平年より少なくなると予測されています。このため、期の後半を中心に、ラン藻の増殖に適した気象条件になると推測されます。

今後一週間は、気温（水温）が高めで、降水量も期の後半は少なめになると予測されるため、土浦入りや高浜入りを中心にしてアオコが発生すると考えられます。このため、引き続き、アオコの集積や、それが腐敗して悪臭の発生する場所がみられると考えられます。



茨城県霞ヶ浦環境科学センター
Ibaraki Kasumigaura Environmental Science Center

担当：湖沼環境研究室
住所：〒300-0023 茨城県土浦市沖宿町 1853 番地
電話 029(828)0963 (dial in)
FAX 029(828)0968

